

チャリティショーに615人 芸達者の演技に盛大な拍手

「師走の夢・チャリティバラエティショー」（町社会福祉協議会主催）が12月12日、町中央公民館で開かれました。20回目を迎えたこの催しは、今年も615人が詰め掛けるほどの大人気。ステージでは11団体の芸達者らによるプロ顔負けの歌や寸劇などが披露され、会場から盛大な拍手が送られていました。スペシャルゲストとして登場の「宮古山口太鼓」も見事なバチさばきで観衆を魅了、年末恒例のイベントに花を添えました。収益金は町社会福祉協議会を通じ、地域の福祉活動に役立てられます。



織笠・轟木小でサケ体験学習 手ほどき受けて新巻き作り

織笠小5・6年生と轟木小6年生児童が12月6日、サケ体験学習に取り組みました。会場の織笠川サケ採卵場では、児童35人が新巻き作りに挑戦。三陸やまだ漁協女性部の皆さんの指導の下、下処理から塩漬^{なまこ}けまでの作業に奮闘しました。轟木小6年の佐々木佳奈子さんは「内臓を取り除くのは大変でしたが、上手にさばけました」と満足げな表情を浮かべていました。児童らは4年前に稚魚を放流し、今回は古里の川に戻ったサケを新巻きに加工。一連の作業を通じ地元漁業の大切さを学びました。

「ふるさとCM大賞」審査会 本町が2年ぶりの栄冠に輝く

12月5日、岩手朝日テレビ主催の「ふるさとCM大賞 in IWATE 2010」の審査会が盛岡市で開催され、町職員有志が制作した作品「うまいかけ算」が見事大賞に選ばれました。本町の作品は、大浦小6年生と地元漁業者の皆さんが自慢のホタテを九九になぞってPRしたもので、分かりやすい構成とホタテのおいしさが伝わる映像が高く評価され、2年ぶり2度目の最高賞に輝きました。このCM大賞は、各市町村の魅力を30秒のテレビCMにまとめた映像で古里自慢を競い合うコンクール、9回目となる今年は30市町村が参加しました。大賞を受賞した本町の作品は、県内で年間365本、東北各県で20本、長崎・熊本・大分・愛媛・長野・石川の各県で5本放送されることになっています。





今月の題字

小林千紗ちゃん
(轟木小3年)

町のあだこ

大沢の鈴木忠夫さんが100歳 夫婦とともに長寿を祝う

大沢の鈴木忠夫さん（明治43年生まれ）が12月1日で満100歳の誕生日を迎えました。同日沼崎喜一町長が自宅を訪問し長寿を祝福。「元気で長生きしてくださいね」とあいさつし、長寿祝い金を手渡しました。若いころは横須賀の海軍工場で軍艦の製造に従事し、戦後は大沢で84歳まで漁業を営んでいた鈴木さん。海軍時代に受けた敵の銃弾が足に残っている以外には特に悪い所も無く、健康状態は極めて良好。妻のヤヨさん（91歳）や息子さんらご家族の皆さんと共に笑顔で長寿を祝いました。



山田高生徒が町内で職場体験 仕事の厳しさを肌で感じる

12月7日から9日まで、県立山田高等学校（加藤春男校長・222人）ではインターンシップ（職業体験学習）を行いました。進路学習の一環として行われたもので、同校1年生49人が、町内の事業所など14カ所ですべて実際に仕事を手伝いながら、勤労の大切さと意義について学びました。中央町のびはん・プラザには生徒7人が出勤。売り場での商品の陳列作業などを体験しました。菊地信子さんは「商品の並べ方ひとつとっても細かい気配りが大変でした」と仕事の厳しさと大切さを肌で感じていました。

※この記事と写真は町総務課へ職場体験に訪れた類家沙織さんが取材し、作成したものです。

女性セミナーが育英会に寄付 バザーの益金2万円を贈る

生涯学習の場として町教育委員会が主催する「やまだまちな女性セミナー」（鈴木協子運営委員長）が、山田町育英会にチャリティーバザーの益金2万円を寄付しました。贈呈式は12月5日に教育長室で行われ、鈴木委員長ら3人が出席。鈴木委員長が「町を担う子供たちの育英資金として役立ててください」とあいさつし、育英会副会長の岩船敏行教育長に寄付金を手渡しました。岩船教育長は「子供たちの進学のため、育英会で有効に使わせていただきます」とお礼の言葉を述べました。

